森林やまがた

No.33　　１９９９　12月

もみじ公園（山形市）

山形市東原町にある山形市が所有する庭園で、もと眞言宗の巨刹宝幢寺の池泉回遊式古庭園である。

この庭園は、寛文年間（1661～）に山形城内本丸庭を造り直した際、その余石と吉野のもみじをもって、城主と江戸から招いた幕府庭師が改築して完成したとされている。

目　次

もみじ公園（山形市）…… 1
山形県林業賞 …… 2
自然を守り、自然を造りたい 3
フッドフェスティバルの開催 4
葉付き乾燥材フェア開催 … 5
きのこ料理コンクール …… 6
22世紀の森づくり …… 7
山形の名水・湧水（大石田町） 8
山形県の古木・名木 …… 8
県森林研究研修センターからのお知らせ …… 9
森林づくり体験 …… 10・11
緑のやまがたコーナー 12・13

平成十一年度 山形県林業賞

川村造林記念山形県林業賞は、民有林の林業振興に寄与したものに贈られる本県最高の賞であります。

本年度は、大江町の**佐竹貞尚氏**と遊佐町の**長坂山林組合**に決まり、さる十一月十八日、県庁講堂で挙行された第四九回山形県農林水産祭において表彰されました。受賞者の主な功績概要を紹介します。

◆特用林産物の生産振興に貢献

佐竹　貞尚氏

長年にわたり、所有山林を適正に管理するとともに、多様な林業を展開することに心がけ、長伐期施業と複層林施業を導入して、林業技術の実践・普及に努めており、西村山地域の課題である「西山材産地形成」の推進に寄与している。

また、昭和五十五年から平成五年まで西村山地方森林組合の理事として、西村山地方林業の振興に尽力するとともに、農協林産部副会長、同舞茸組合会長の要職を歴任し、森林組合の育成強化及び特用林産物の生産振興を図るなど地域の発展に貢献している。

さらに、林床を活用した山菜の栽培や自生ネマガリタケの栽培により、積極的に林業所得の向上を図るとともに、「大江町林床栽培モデル実証圃」の設置・展示を通じて、林業経営、技術の普及啓発に努めている。

◆集約的な林業経営を実践

長坂山林組合

昭和十年三月に遊佐町大字野沢字長坂地内に山林を所有する住民が、所有する四六〇ヘクタールにわたる森林資源の造成と公益的機能の維持増進のために結成された任意の団体であり、以来、六十四年間目的達成のため継続して地道な活動を実施している。

現在は、遊佐町の民有林森林所有者の一一％にあたる三二一名で組織化しており、区域内に人工林率七八％の優良林地を造成し、林道・作業道の林業生産基盤の整備に積極的に取り組み、林内道路密度ヘクタール当たり四七㍍の高密な路網を構築している。

その結果、生産コストが縮減され、その効果は組合員の生産意欲の向上につながり、区域内では効率的な施業ときめ細やかな管理による集約的な林業経営が実践されている。このことは、地域の模範となり、地元に就労の場を提供するなど森林組合の事業活動、遊佐町の森林行政の推進に多大な貢献をしている。

〔県森林課〕

私も頑張っています!!

自然を守り、自然を造りたい

長井市　山形県南部緑化事業協同組合
監理技術者、一級造園施工管理技士
一級土木施工管理技士　菅野　美奈子

◆造園業を選んだわけ

私の父は造園の仕事をしており、祖父は花木や盆栽を扱う仕事をしていました。その為か、小さい頃から石や土、花などが大好きで毎日ドロンコになって遊んでいました。よく木や石に登っておこられたのを覚えています。

また、よく母について庭園や公園工事を見に行くことも多く「いつか私も、自分で庭を作りたい」と自然に思うようになっていました。

◆造園業に就いて

仕事の内容は、主に公共事業の緑化工事に関わるものです。まず工程を組み、管理方法等を検討してから施工に入ります。工種は植栽工や石組工、園路工など様々あり、それに伴う図面や書類の作成、写真管理などをしています。実は仕事をして初めて知りましたが、造園業は、木を植えたり石を組むばかりではなく、公園を造る時などは遊具施設や東屋の設置、排水など、多くの建設業の知識と経験が必要だということです。この仕事をする上で覚えなければならないことは現場の技術だけではなく、幅広いものなのだと痛感しました。

図面や管理図の作成にパソコンを使用

現場管理の状況

私達は樹木や草花といった生きものを相手に仕事をしています。樹木の種類や生態、管理、また、そこに生息する生き物などを含め、学ぶことは大変多く、一生かかる勉強になるかもしれません。大変ですが、それだけにやりがいのある仕事だと思っています。

よく父に「なるべく多くの自然を見て、四季を感じろ」と言われました。私達の仕事に自然は不可欠で、たとえ今すぐ役に立つことではなくても、とても大切なものだと思います。

先日私達の造った森林公園に行きました。工事をしている時は人力によるところも多く、本当に苦労しました。ですから、完成した時の喜びも大きかったことを思い出しました。

その公園では子供達が遊び、家族連れが弁当を広げていたり、様々な休日を楽しんでいました。自分の植えた樹木が自然に溶け込み生長していたことがとてもうれしくて、この仕事に就いて本当によかったと思いました。

これからも技術を学び、少しでも安らげるスペースを造れるよう努力したいと思います。

庄内の山の幸が一堂に！
「ウッドフェスティバル'99」開催される

今年で十回目の節目を迎えたウッドフェスティバルが十月二十三・二十四日の両日、鶴岡市小真木原公園で開催され、少し肌寒い天気ながらも、二万人の来場者で賑わいました。

「くらしに生かそう、木のよさを」をテーマに、会場内は工夫を凝らした様々な催し、出展がいっぱいで、毎年楽しみに来る人も多く、庄内では秋のイベントとしてすっかり定着した感があります。

木工が体験できるクラフト村は、行列ができるほどの人気で、親子で力を合わせ、熱心に取り組んでいました。

丸太で作った特設ステージでは、歌手の佐藤浩子さんのステージをはじめ、歌、踊り、太鼓、吹奏楽など多彩なアトラクションが披露され、大いに盛り上がりました。

会場入り口では上棟祭の実演が行われ、多くの人が厳格な儀式を見上げ、また、迫力ある巨大原木・銘木などを展示した「木の散歩道」では感嘆の声をあげながら、興味深く見入っていました。

木製巨大迷路、丸太切り競争、丸太釣りゲームなどは、相変わらずの人気で、木工品等の競り売りにも老若男女多くの人が終始笑顔で参加していました。

なめこ汁、餅などの振る舞いは行列ができて瞬く間に終了し、緑のプレゼントでは、ミス庄内もプレゼンテーターを努め、用意された四季咲ツツジ、ツバキ各三〇〇本は数分でなくなるほど好評でした。

展示のテントでは、森林・林業の紹介パネルの展示、ドングリなどを使ったクラフトコーナーや、林業機械の実演展示も行われ、きのこ・木炭などの林産物や木製品等の販売テントでは終日人が絶えず、売り手と交渉しながら、品物を手にしていました。

今回も緑の鶴岡・農林水産まつりと同時に開催したため、充実した内容で、多くの方に「木の良さ」をアピールするとともに、森林・林業・林産物を紹介できたと思われます。

〔庄内支庁林業振興課〕

「葉付き乾燥材フェア」開催される

－葉付き乾燥材生産支援モデル事業（県単独事業）－

木材需要の大部分を占める住宅建築について、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」が今年制定され、『基本構造部分の十年保証』や『住宅性能表示制度』などが来年度以降実施されます。

そのため、住宅の基本構造部材等に使用している木材についても、割れや狂いのない安定した製材品が求められることになり、木材の乾燥は不可欠になると見込まれています。

しかしながら、経費のかかり増しなどから、県内の乾燥材の生産量割合は一割に満たない状況です。

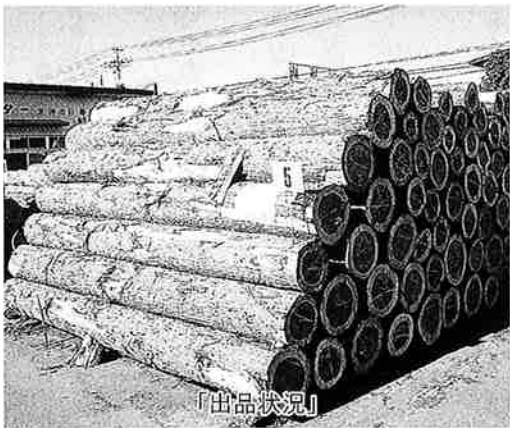
県では、乾燥材を低コストで生産できる乾燥工程のシステム化を図るため、「葉付き乾燥材生産支援モデル事業」を昨年度から実施しております。

葉付き乾燥とは、樹木を伐採した後、そのまま枝葉を付けた状態でおよそ二カ月ほど林内で寝かしておく事により、葉から水分が蒸発し、樹幹部の乾燥を促進させることにより、人工乾燥の前処理を行うものです。

「葉付き乾燥状況」

このほど、今年度の葉付き乾燥材の展示会が、天童市（十月二十五日）と平田町（十一月十八日）の山形県森林組合連合会木材流通センターの二会場で開催されました。

天童会場では、寒河江市田代地区、白鷹町山口地区、戸沢村角川地区から合わせておよそ一八〇㎥の出品がありました。また、平田会場では鶴岡市三瀬地区と遊佐町箕輪地区から合わせて一六〇㎥の出品がありました。


「出品状況」

展示会には、一般材との差別化を図るため、はい積みされた材に、葉付き乾燥材認証マーク、生産地、含水率等を表示したラベルを添付しました。

「認証マーク」

落札率については、一般材が四〇％程度だったのに比べ、葉付き乾燥材については天童会場では八五％、平田会場では一〇〇％と売れ行きも上々であり、価格的にも高値で取引されたようで、今後の普及に弾みになるのではないかと期待しています。

〔県森林課〕

第四回山形県きのこ料理コンクール 知事賞は「ふるさと巻ききのこ」に決定!!

きのこは健康食品として近年注目されています。このきのこを使い、より手軽に、美味しく、たくさん食べることのできる料理を募集したところ、今回は百三十一点の応募がありました。

今回は高校生の応募が多く、男子高校生の作品も数点あるなど、若い方の関心が高まってきている傾向にあります。

また、料理のレベルは回を重ねるごとに向上しており、きのこの持ち味を活かした斬新な作品が多数見られました。

さる十月三十日（土）に山形市内で行われた実技審査では、書類審査で選ばれた十作品を調理し、腕を競い合いました。

調理風景

山形県料理学校協会の古田久子会長を委員長とする審査員の方々の審査の結果、左記の皆様が受賞されました。

◆山形県知事賞

「ふるさと巻ききのこ」
渡部　満さん（松山町）

◆山形県森林組合連合会長賞

「森のおくりもの」
中川妙子さん・山口香織さん
（高畠高校）

◆山形県経済連会長賞

「豆腐ときのこの
から揚げ山かけ」
菅野ちゑさん（長井市）

◆庄内経済連会長賞

「きのこワンタン」
渡部真喜さん（鶴岡市）

◆山形県きのこ振興会長賞

田崎新子さん（東根市）
柏倉茂子さん（羽黒町）
田中佐知さん（村山農業高校）
横澤弘樹さん（荒砥高校）
加藤恵美さん（新庄南高校）
松田章子さん（新庄南高校）

「ふるさと巻ききのこ」

県知事賞を受賞された渡部さんの作品は、審査員の方々から「地元の素材である庄内麩をうまく活かし、まいたけ・えのきたけとの組み合わせが絶妙」との評価をいただきました。

また、来年三月に東京で行われる全国大会に県代表として出場することになっております。

（県森林課）

現地ルポ

二十二世紀の森づくり

―白鷹町大字滝野―

二十二世紀の森づくりの会（代表　横澤米次）は、市民ボランティアと山村住民が一体となり、有用な郷土樹種であるブナ人工林を造成するとともに、森林整備の重要性について学習し、その意義について意見交換をするなど、川下と川上との連携を強化する目的で、昨年度発足しました。今年は八月六日に昨年の植栽地の下刈り作業を約二十名の会員で、また、十月二十四日の植栽作業には約三十名が参加し、ブナ四百本を植栽しています。

ブナの植栽

夏の下刈り作業は、炎天下で下刈り鎌を振り回し、林業の厳しさを思い知らされましたが、その後の冷たい山菜汁のうまさと木陰の優しい風が疲れを癒してくれました。

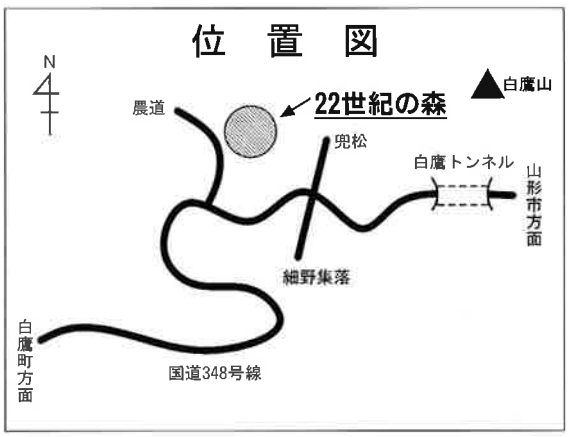
秋の植樹作業は、秋晴れの一日となり、「自分達の目指すブナの森の完成は二十二世紀」と汗だくになりながらも、植え終わった後の充実感とおいしい芋煮等に満足してくれました。

下刈り作業

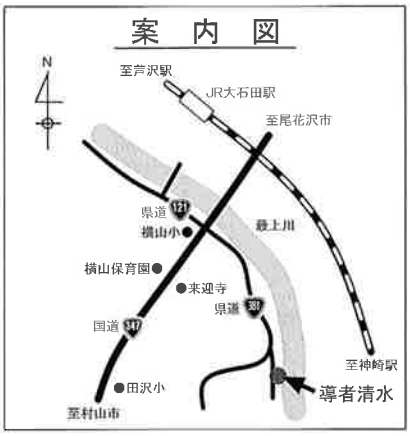
このブナの苗木は、平成七年から始まったブナ研究プロジェクトチーム「ファグス」（二十二世紀の森づくりの会の前身）の研究から、大量増殖技術開発に取り組み、現在では三万七千本の苗木を確保し、治山事業や公園事業等各方面の需要に応えています。

ブナは、天然更新では増殖が非常に難しく、発芽率や三年後の定着率も非常に低く、豊作年が少ないことなどから、研究成果の利用が期待されています。

参加者アンケートの結果によれば、来年以降も西置賜管内の白鷹町以外の市町においても、さらにブナの造林地を増やし、減少した郷土樹種の復活を図り、過去の生態系に一歩でも近付けていきたいという意見が一番多いこともあり、今後も続けていく予定です。



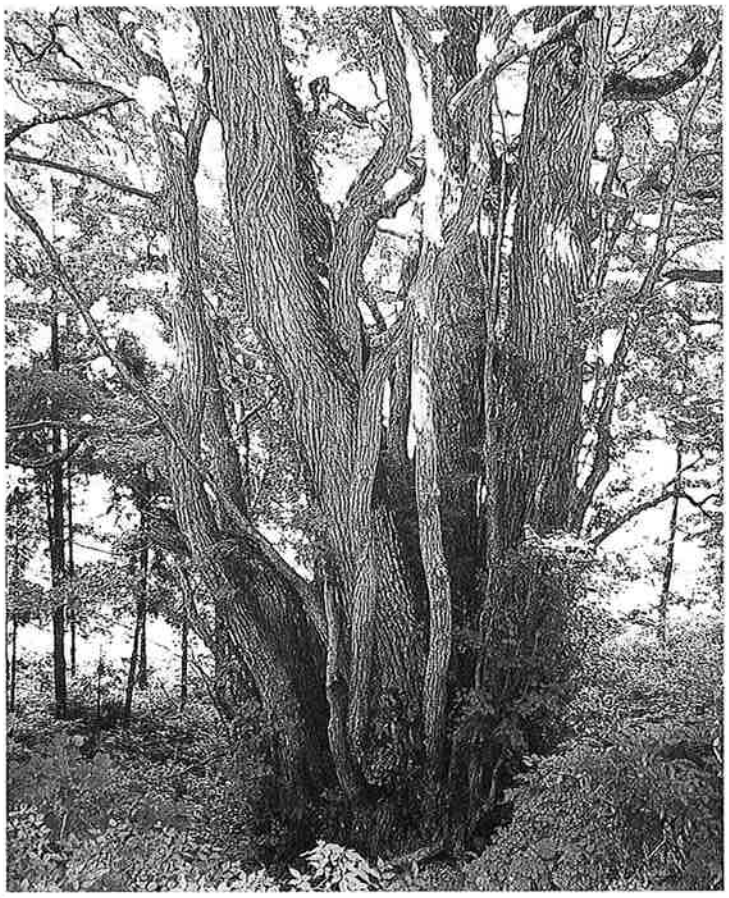
（西置賜地方事務所林業振興課）



今から350年ほど前、出羽三山の参詣人（導者と呼ばれている）らが往来し、この清水に足をとどめて身を浄水し、月山へ参詣したという。

また、「名水」として知られ、昭和初期まで地区住民の生活用水として使われていた。

この清水には、サンショウウオやヨコエビが棲息しており、極めて水質のよい湧水といわれている。〔山形県林業改良普及協会〕



山形県の古木・名木⑨ 大滝のカツラ

東根市関山にあり、林道「長坂向線」の左右に一本づつある。

写真は林道の右側にあるもので、根回り約一八㍍、幹回り約一七㍍、樹高は約二五㍍ある。

二十数本の株立ちとなっており、太いもので幹回り三㍍以上ある。

樹齢は、約三百年以上といわれ、昭和三十五年に山形県天然記念物に指定されている。

〔山形県林業改良普及協会〕

県森林研究研修センターからのお知らせ

クマによるスギ剥皮害の防除法とは？

◆密（ひそ）かに広がるクマの被害

クマがスギの皮を剥いでしまう被害（クマハギ）が県南部奥地のスギ林で多発しています。

被害は米沢市・高畠町を中心に県内一二市町村で発生し、これまでの被害面積は約一〇〇haに及んでいます。年間二〇林分以上で約五ha、一二〇㎡、五〇〇本のスギが被害を受け、一度被害にあった林分では毎年数本ずつ生長の良好な立木がクマハギされるので、経営上重要な問題となっています。

被害は今のところ奥地壮齢林で局所的に発生していますが、今後、壮齢期を迎える大面積造林地への被害拡大が危惧されます。

荒縄巻きによる防除方法

◆クマハギの防除方法は？

クマハギは、山側地際から発生します。そこで、スギの地際付近にいやがらせをして被害を回避する防除法を三種類開発しました。

枝条集積による防除方法

一つめの方法は、二分の荒縄を残したい木の地上約三〇cmの位置で三重巻きにします。この方法は安価で作業性も良く縄は三年間木を守りその後自然に腐って林に還元されます。

二つめの方法は、ノウサギなどの忌避剤であるチウラム剤（ヤシマレント）を地上約三〇cmの位置で幅一〇cmに山側のみ塗付します。効果は三カ月程の短期間であり、毎年処理する必要があることから、特に残したい木に適用するのが経済的です。この忌避剤は現在試験中で二年後にはクマ忌避剤として薬剤登録の見込です。

三つめの方法は、下層間伐や力枝までの枝打ちを行い、作業で発生した幹や枝を残したい木の山側地際に集積します。

効果は約五年で育林作業が同時に防除につながり、経済的かつ効果的な防除方法といえます。

これらの方法は、林齢や地形に応じ組み合わせて行うのが効果的です。この研究は全国から注目され、全国森林病虫獣害防除協会から森林防疫奨励賞二席表彰を受けるなど高く評価されています。

各種防除法の効果と経費試算及び作業功程

防除方法	面積(ha)	試験地内本数(本)	被害本数(本) 1年目	2年目	3年目	計	30cmのスギ立木処理経費(円) 資材費	人件費	雑費	合計	功程(本/人・時)
忌避剤塗布	0.24	227	1	—	—	1	106	94	40	240	107
無処理		224	27	—	—	27					
荒縄3重巻	0.14	134	0	0	0	0	11	42	11	64	80
無処理		156	2	4	5	11					
間伐+枝打ち集積	0.04	53	0	0	—	0	通常経費の2割増加				2割増加
間伐後放置		56	6	4	—	10					

森林（もり）づくり体験

ふれあい交流など
多彩な森林づくりを展開
森林学習が活発

早朝、北山形駅発のJR代行バスに二十数人の集団が飛び乗った。大石田駅で下車、また、別の車に乗継ぎようやく九時過ぎに体験会場である尾花沢「鶴子ふれあいの森」に到着。眠い目をこすりながら学生たちは頑張った。「アルバイト先から真っ直ぐ来たんだよ」という学生もいました。このような熱意に支えられ、今年は九回催し、のべ二百九十三人の参加となりました。

「山仕事の体験型」からの脱皮やコーディネーターの養成など一層充実し定着するには課題も多かった。

①5月22日
西川町岩根沢

○植林作業体験　　三十四名

日常業務とは異なった野外での生産現場と身をもって体験することに加え、現地の人たちとの交流によって、社会的な視野を広め豊かな人間づくりに寄与する。（体験研修の目的）

②六月二十六日　櫛引町研沢

○参加者　東京ガス社員（一般十五名、学生六名）

○下刈作業と森の恵み　　（山菜採りなど）

「私の体ぐらいある大きな鎌を使って雑木を刈りました。見た目は簡単そうで、パッ、パッとやっているように見えましたが、なかなか刈れない太い雑木もあってとてもしんどいものでした」（学生　女）

③7月1日
櫛引町　渋谷苗園

○参加者　山形大学農学部　　三十名

○森林、林業と人々の生活
・森林の造成、維持、管理について学ぶ
・スギ造林地の下刈作業を行う
・ブナ林を散策し、里山の関りを学ぶ
・スギ苗木の生産について見学する　（森林資源実験実習）

④七月三日　尾花沢「鶴子ふれあいの森」

○参加者　十九名（一般十一名、学生八名）

○下刈作業と山菜栽培地の手入れ

「杉の木々の下草もきれいに刈られ整然と美しい山並を眺め、手入れをする事の大切さを実感した。うどやコゴミやクワダイ等も植えてあり、自然に出るものを採るだけでは絶えてしまうのかなと思った。一寸さびしい気もした」　（一般　女）

「小さく出ている芽（葉）を発見して、元気が出ました。森の中は恐いような落着くような良い気分転換になりました」

⑤7月17日
天童市ジャガラモガラ

（学生　女）

○参加者　東海大山形高校
二十二名

○下刈作業と環境保全学習

さまざまな形で自然に入り、体験を通じて自然に触れ、そのしくみを体感し、自然と人々との調和について考え、共存できる人物を目指します。

（自然・総合コース選択要領）

⑥八月二十一日　尾花沢「鶴子ふれあいの森」

○参加者　東京調布中学校
三十名

○森のクラフトと自然観察会

鶴子地区と東京調布学園の都市と山村の交流事業は、十年以上の友好関係が続いている。

⑦9月25日
尾花沢市「鶴子ふれあいの森」

○参加者　三十九名
（一般十一名、学生二十八名）

○広葉樹の手入れと対話交流

「疲れたけれど楽しかったです。林業の場面にふれたのは初めてだったので、興味があった。芋煮美味しかったです。また来ます」　（学生　女）

「チェーンソーを使用した際の木屑の飛散の大きさにビックリした。自然の中は気持ちが良い」　（学生　男）

「山里の暮し、外で見てるより大変な事とわかった」
（一般　女）

「森林を育てることはたくさんの労力が必要なんだとわかった」　（学生　男）

「間伐材でキノコが栽培できることは初めて知った。」
（学生　男）

⑧十月三十日　櫛引町研沢

○参加者　三十八名
（一般十八名、学生二十名）

○枝打ち作業と地域交流
（ふるさとむら宝谷）

⑨十一月六日　尾花沢「鶴子ふれあいの森」

○参加者　東海大山形高校
六十名

○きのこの原木づくりと森林文化学習
（㈶山形県林業公社）

信頼の森林づくり

地域に根ざした豊かな森林をつくります
いろいろな森林体験ができます

財団法人山形県林業公社
山形市鉄砲町二丁目19番68号
TEL023−623−3505

緑のやまがたコーナー

全国育樹祭並びにみどりの地球環境会議に参加して

遊佐町　林業士　菅原啓二

「育てよう　街がやわらぐ緑の樹」をテーマに第二十三回全国育樹祭が十月三十一日大阪府岸和田市の府営蜻蛉池公園を会場に行われました。天候にも恵まれ、大都会ならではの華々しい行事でありました。

前日の三十日には、五十年後の地球と緑をと「緑の地球環境会議」と銘打ったパネルディスカッションに参加させて頂きました。

基調講演では地元出身の作家の難波利三氏が子供の教育にも緑は大切な条件で、大切に今在る葛城山のブナ林などは貴重であり大事にして行こうと言う話や、前英国王立植物園園長G・Tプランス氏が熱帯林の地球環境に対する影響力の大きさをスライドで説明し、この五十年の間にかつてない規模で環境破壊が行なわれたので今後五十年で環境復元の時代にしようと呼びかけられました。また、パネリストのアジア極東地域森林資源官の樫尾氏からは、発展途上国の人口の増加と反比例して森林が減っていると現場を見ての話や、関西学院大教授は森林と魚の関係をマングローブ林を例にして説明し、緑の大切さを強調されていました。

温海町　温海町林業研究会　本間隆雄

十月三十一日「育てよう街がやわらぐ緑の樹」を大会のテーマに第二十三回全国育樹祭が大阪府営蜻蛉池公園に皇太子同妃殿下をお迎えし盛大に開催されました。私は前日併催行事である緑地球環境会議にも参加させていただきました。

吹田市の万国博ホールにて開催された会議では、「都市とみどりの良い関係を目指して」と題して難波利三氏から、また、「五十年後の地球とみどり、人との新たな交流」と題して、前英国王立キュー植物園園長G・Tプランス博士が講演を、パネルディスカッションでは西学院大学のケネスランドル教授、朝日新聞社の石井論説委員、FAO極東森林資源官の樫尾氏が、いかに緑の森林が大切かを強調され、特にビデオで紹介されたアジア極東の森林乱伐による鉄砲水や山崩れなど見るも無惨な様子は私たちの想像をはるかに越えるものでした。

大阪府の森林率は三〇パーセントと横山知事の挨拶でしたが見渡す限り赤ハゲは無く緑豊かな土地でした。育樹祭会場では、参加者の座席やフラワーポットなどいたるところで間伐材利用がPRされていました。

このたびの参加で森林や林業の大切さを再認識いたしました。

緑のやまがたコーナー

大きくなぁれ『絆の森』

八幡町　山形県緑を育てる女性の会　遠田正子

まだ蒸し暑さの残る七月十八日、私達の会の『絆の森』の二回目の下刈りと、源流の森インタープリターとの交流会が行われました。

庄内を出る頃は、良いお天気だったのですが、源流の森に近づくにつれて、今にも泣き出しそうな空模様になり、下刈りをする頃は、ポツリ・ポツリと雨が降って来て、合羽を着ての作業となりました。

指導林家の柿崎富栄さんの指導のもと、会員二十一名で三〇アールの下刈りが始まりました。

『絆の森』は、雑草が生い茂り、杉はどこにあるのかわからないほどです。「ピンクのビニールテープを目印にしなさい」とのアドバイスもありましたが、はずれているのもあり、鎌も自由に使えない私には、杉を切らないように刈るのが、大変でした。私達は宝さがしのように、「次は大体ここらへんに杉の苗があるんじゃないの」などと言いながら、女性パワーで三〇アールの下刈りも一時間半程で終える事ができました。

山の下の方に植えた杉苗は、上の杉苗よりも成長が遅いように思いましたので柿崎さんにお聞きしましたら、「挿し木苗だからかもしれません」と言うことでした。道路際のオオヤマザクラは逞しくなっていて、小さなスギ・クリ・クルミ・トチノキを守っているかのように見えました。

源流の森のインタープリターとの交流会では、皆さん特徴あるニックネームを付けて活躍しているお話しを聞かせて頂きました。また、「源流の森の草木に名札が付いていないのはどうしてですか?」と質問したら、「その木だけを見て、森全体を見ないから、付けないのです」と、答えられた時には、源流の森の考え方が解りました。

私は今回が初めての参加でしたので、『絆の森』ってどんな場所にあるのだろうかと想って来ました。道路のすぐ上、源流の森のメイン施設が見える見晴らしの良い場所でした。

庄内からは遠いけど、どのように成長するのか、どんな森になってゆくのか、ずっと見続けたいものです。

冬のボーナスは
活かしてみましょう
農林中金へ！

確定利回りの１年貯蓄
ワリノー

半年複利の５年貯蓄
ワリノーワイド

どなたでもお気軽に
農林中央金庫 山形事務所
〒990-0042 山形市七日町3-1-11
☎(023)６４１－６２７１

やすらぎの緑の空間を創造し　山形の未来を考える

社団法人 山形県緑化センター
理事長　原田　克弘

山形市大字長谷堂字馬場2265番
TEL（023)688-6633　　FAX（023)688-6634

木材市況

（10月10日現在）

	樹材種	材長	品等	1m³当り価格	前月比較
素材	スギ小丸太	3.65～4.00m	込	13,700円	－100円
	スギ中丸太	〃	〃	18,300円	－100円
	スギ大丸太	〃	〃	21,000円	＋1,400円
	米マツ中丸太	6.0m～	普通材	20,000円	＋100円
	米マツ大丸太	〃	〃	23,400円	＋100円
	北洋アカマツ中丸太	3.8～	〃	17,600円	－400円

	樹材種	厚	幅	長	品等	1m³当り価格	前月比較
製品	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	61,700円	＋200円
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	〃	59,700円	＋2.400円

森林やまがた12月号　平成11年12月１日発行　通巻第33号
編　集　山形県林業改良普及協会　山形県
発　行　山形県林業改良普及協会
〒990-0045 山形市桜町２－３５　林業会館内
☎(023)622－8823　FAX(023)633－8506

印刷所　大場源太郎印刷所　定価　一部二三〇円